

# としまF1会議 開催報告

「誰もが働きやすい豊島区」をめざして  
～WLB先進都市に向けた提案～【WLB】

ワーク・ライフ・バランスを推進して働きやすい豊島区！にするためには、啓発と情報提供、支援制度が並行して必要です。特に経営者向けの啓発は必須！そこで私たちのチームは「としま 100人社長会の開催を提案します。」区内に事業所がある会社の社長や人事担当者に集ってもらい、WLBについて考えるきっかけとします。またその際、区にどのような制度があればWLBに取り組みやすいか調査し、ニーズに応じて次年度以降検討します。これを発展させた形として、としま100人女子会とのコラボも考えています。

「親も子ども笑顔になる居場所・つながりづくりまちかど食堂  
おはようバナナ!? ～実際にやってみました～」【チームとしまっ子】

私たちは自分たちのワールドカフェを主催し、子育て中のお母さんの声を集めました。結果は地域のつながりによる子育て支援を求める声が多数！そこで提案するのが「地域コーディネーターの設置」や「としまホットカフェ」、「まちかど食堂で朝ごはん」などです。今回はまちかど食堂の一環として、バナナを地域で配ってもらいました。たった一度の実施でも、地域の方と子どもたちの交流が生まれました。小さな活動ですが、このような取り組みを多数行うことで、子どもと隣近所の人が顔見知りになり、「地域の子育て力」へつながると考えています。

「新庁舎を『顔』として安全・安心に子育てできる豊島を  
積極的にアピール！」【ななまるねっとわーく】

区の子ども家庭支援センターは質の高いサービスを提供していますが、誰もが利用しているとは言えません。そこで私たちは多くの人が集まる新庁舎をきっかけとした子育てプランを考えました。1つは子育ての悩みを気軽に相談できる「子育て支援窓口」と「子育てナビゲーター」を作ること。多様化する子育てサービスの「交通整理」をする存在が必要です。窓口にはぜひ母子保健の機能も加えて「子育て総合情報スペース」の設置。ここに来れば何でも揃うと思ってもらえるよう、入園案内からイベント・サークル情報まで様々な情報を新庁舎から発信することを提案します。

豊島区は、日本創成会議減少などで、23区で唯一「消られました。それをうけまちづくり」について考えニーズを掘り起こす場として上げました。会議の名称代が伝わるようネーミングとは異なる豊島区の未来で、F1レースのようにス会議にしたいという思いが

会議の委員は、7月19日イベント「としま100人女子識経験者、区主催のワーク・ライフ・バランスフォーラム交流会参加者、豊島区推進認定企業の勤務者、区しています。(男性参加者

会議は8月～12月までに会議では、「豊島区に住みをテーマに委員が「子育て」「まちづくり」などの6チー重ねてきました。いろいろ区長へプランの発表をし

◆F1について◆  
広告・放送業界のマーケティング用語で20歳から34歳までの女性を指す言葉。FはFemaleの頭文字で、女性を指し、F3は50歳以上

による調査で、若い女性の減可能性都市」と位置付けて、「女性が暮らしやすいるため、若い女性の意見やて「としまF1会議」を立である「F1」は、若い世し合える場としてのイメージしました。また、「消滅」「Future」のために、そしてスピード感をもって取り組む込められております。

に開催されたキックオフ会」の参加者を中心に、学ワーク・ライフ・バランス内大学の在学生などで構成も含む)

全6回開催致しました。各続けられる魅力的なまち」「ワーク・ライフ・バランス」ムに分かれて調査・研究をな意見を集約し、最終的にした。

ティンク用語で20歳から34下F2は35歳から49歳の女の女性を指します。

「豊島区改め今日から『さくら区』です」  
【としまブランド刷新チーム】

日本の桜の8割を占めるソメイヨシノが、実は「MADE IN TOSHIMA」であるのご存じですか？魅力的なとしまブランドを作るには、マイナスイメージをゼロにするだけでなく、積極的にプラスの価値を作ることが必要です。そこで、豊島区の名を封印して「さくら区」を宣言！区を持つあらゆる資産に桜のエッセンスをプラスする「SAKURAブランド大作戦」を展開し、「としまといえば桜」のイメージを増幅します。この取組みには区民の参加が必須です。区は区民が積極的に関わりたくなる参加型の仕掛けの用意を！

さあ、みなさんで誇れる「さくら区」をつくりませんか？

「この街で生きていく！ 快適なライフスタイルのための  
情報満載!! 新しい『広報としま』【さくらんぼ】

広報紙は手に取ってもらってからがスタート。今は情報量が多すぎます。逆にホームページには、人の顔が見えるような充実した内容が必要です。これからの広報は「ホームページ>広報紙」の位置づけへ転換！広報紙は情報を精査して、女性受けする表紙や楽しめる内容、見やすさを重視。読者に寄り添うことを目指します。ホームページは親しみやすさや迷子にならず目的地へたどり着くことを重視して、アクセス数を増やすべきです。また、外国人が欲しい情報を外国人により発信。誰もが必要な情報を取得できるようにサポートすることも必要です。

「豊島区女性徹底サポート宣言 &  
『さくらぼプロジェクト』の提案」【Community 5】

女性に優しいまちを目指す「さくらぼプロジェクト」。一つには空き家や空き店舗の有効活用を考えました。「さくらぼ」では、女性一人一人のニーズに応じて子育てと就業をワンストップで支援。「さくらキッズ・サロン」は、期間限定で起業を試せるチャレンジスペースや育児スペースを設けます。「さくらハウス」は、ファミリー世代と高齢者世代の住まい、または多世代が集まれる場所づくりをします。また、街のコミュニケーションの場として公園に注目。長崎地区をモデルに検証を行い、各公園に応じた「理想の公園」を提案しました。

